

# 環境を保全するためのコストを 環境会計として発表しています

## 環境コスト / 環境データ

クリモトでは企業活動の中で、環境を保全するために要したコストとその効果を「環境会計」として定量的に把握・公表しています。この「環境会計」を環境経営の大切な要素として捉え、今後さらに環境会計を環境経営の指針として活用したいと考えています。

## 環境会計

### 1 投資と費用

当社は環境保全活動に関するコストを把握し、その主な取り組み内容を集計・公表するとともに、より一層コスト効果を有する活動の推進をしていくために、環境会計を1999年より採り入れています。今回も、環境省「環境会計ガイドライン2002 版」に基づき、公表用A-1表(環境保全コスト主体型フォーマット)の分類に従い記載しています。投資額と費用額の合計では、前年度に比べ44.4%減の1,491百万円となっていますが、環境負荷は減少傾向にあります。経営環境の厳しい中ではありますが、できる限り環境負荷の低減に向け努力していきたいと考えています。

分類	主な取り組みの内容およびその効果	投資額	費用額
(環境保全コスト) 事業エリア内	公害防止コスト	防音対策、集じん器などの管理費	12 362
	地球環境保全コスト	工場緑化および維持	0 9
	資源循環コスト	産業廃棄物処理委託費	2 131
生産・サービス活動に伴って生じる上流・下流コスト	再生品利用、再利用	0 3	
管理活動コスト	ISO14001 取得・維持管理	0 52	
研究開発コスト	刈草炭化装置、バイオガス燃料電池、プレーキディスクなど	68 826	
社会活動コスト	NGO 活動支援、地域活動、周辺緑化	0 8	
環境損傷コスト	汚染賦課金	0 18	
<b>合計</b>		<b>82</b>	<b>1,409</b>

研究開発コストには、研究開発センターのデータを含めます。

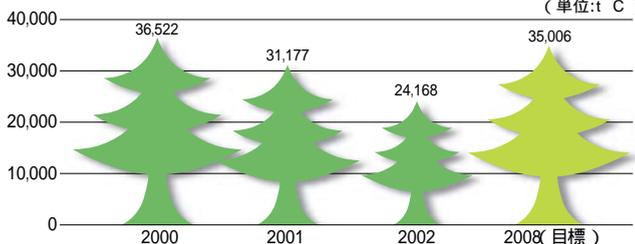
単位:百万円

### 2 効果

#### ● CO<sub>2</sub>排出量

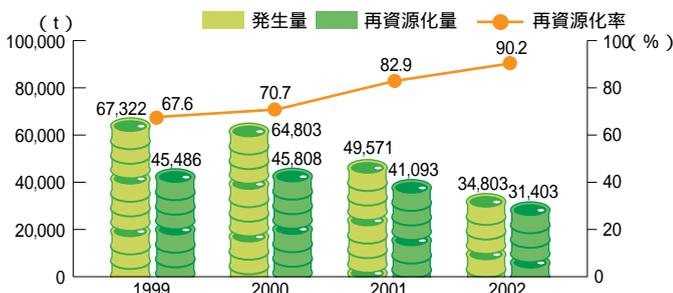
京都議定書で決められたCO<sub>2</sub>の排出量を1990年度比マイナス6%達成のため環境自主行動計画に於いて、2008年までに35,006T-Cの目標値を設定しておりましたが、既に2001年度に目標値を上回る31,177T-Cを達成いたしました。数値目標はクリアしましたがさらなる削減のため、コージェネや省エネ設備の更新(▶P14 堺工場事例)、CO<sub>2</sub>削減機器の開発・導入(▶P9・P11) 配送体制の見直し等を進めてまいります。

(単位:t C)



#### ● 廃棄物量とリサイクル

当社の生産過程で発生する廃棄物は、鉍滓・汚泥・金属屑でその大半を占めます。再利用、再資源化率の向上に努力します。



## PRTR

当社使用の化学物質はその大半が塗料に由来するものでキシレン、トルエンが大半を占めます。当社製品の粒状活性炭を利用した溶剤回収装置(▶P9)を用いて排出を削減しています。また、塗料の使用量削減を目指し、鋼橋箱桁内部無塗装システムの研究を続けて来ました。

とらい工法(▶P11)にもその技術は生かされています。

### 平成14年度

単位: t

政令No	物質名	大気への排出	水域への排出	土壌への排出	排出量の合計	移動量
63	キシレン	110.9	0	0	110.9	3.3
227	トルエン	38.5	0	0	38.5	6.8
40	エチルベンゼン	7.5	0	0	7.5	1.8
	その他	0	0	0	0	2.7
—	合計	156.9	0	0	156.9	14.6